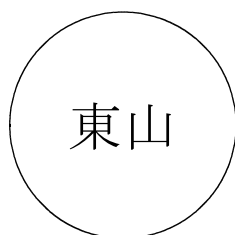


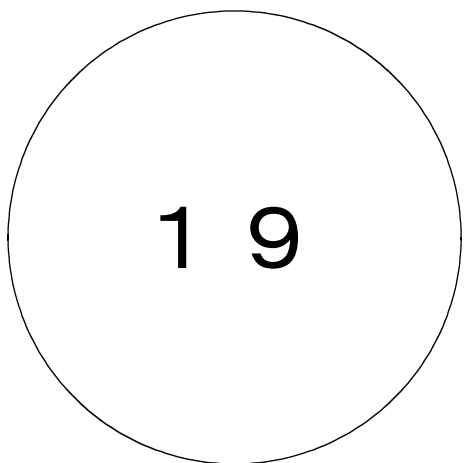
山連教第63次  
教育研究集会報告書



東山

牧丘のむかし発見  
(総合的な学習の時間)

- ・「開かれた学校づくりをめざして」  
地域住民の力を活かした授業づくり



19

保護者・地域住民との提携

山連教東山梨地区  
牧丘第一小学校  
那須 美佳

## I 研究の経過と概要

東山梨地区 保護者・地域住民との提携部会

### 1. 研究テーマ

#### 「開かれた学校づくりをめざして」

子どもたちの抱えている問題やその背景にある社会・地域の課題を明確にしながら、子どもたちが一人の人間として社会的自立を果たしていくためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を明確にするとともに、それぞれを補完し合いながら地域全体で子どもの成長を支えていくことが必要である。また、学校のあり方を根本から見直し、「学校の地域社会への参画」や「地域の学校教育への参画」をめざし、「地域とともにある学校」＝「開かれた学校」づくりにとりくまなくてはならない。

近年、学校では、外部講師の依頼、保護者・地域住民などを対象に行う学校評価・授業評価、学校評議員制の流れを汲む組織の設置等、学校運営に関して外部の声を取り入れることが増えている。今回の教育基本法改正により、同法に「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。」との規定（第13条）が置かれた。学校教育法には、「小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」と定められた。（第43条）また、新学習指導要領の中にも、学校・家庭・地域住民相互の連携及び協力の必要性が多く載っている。これらのことから、学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっていると思われる。

学校は地域社会を離れては存在し得ないものであり、児童は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。本部会では「開かれた学校づくりをめざして」学校を開くことの意味を問いながら、地域・保護者との関わり方を学び、そのことが子どもの成長、学校の成長、地域の活性化に生かされるような取り組みについて検討していきたい。

#### 【研究の方向性】

- I 学校と地域との関わり方・連携の方策について
- II 学校・子どもたちが地域の人々とのつながりを生み出す実践
- III 研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

### 2. 研究内容・方法

- ・部員によるレポート報告をもとに討議し、研究を深める。  
各自、各校の実践を通して、子どもたちの変容の様子、問題点、悩みなどを提案し、それについて討議する。
- ・保護者・地域との連携について、授業実践(2回)を通して、研究を深める。
- ・常任講師の先生方には、常時ご助言・ご指導をいただくとともに、保護者・地域との関わりや連携について情報提供していただく。

### 3. 研究組織

部 長	長沼 薫 (山梨小)		
副 部 長	那須 美佳 (牧一小)	渡辺 尚英 (東雲小)	
常任講師	筑野 一彦 (東雲小)	有野 正樹 (大和小)	
	神山 信也 (牧一小)	三神 寿男 (玉宮小)	
	八巻 登 (塩山南小)	清水 千春 (井尻小)	
研究メンバー	吉岡 美奈子 (玉宮小)	中村 直人 (井尻小)	竹川 由美子 (三富小)
	新海 小緒里 (勝沼小)	古屋 雅章 (加納岩小)	
	加々美 教子	竹川 きよみ	樋口 仁美 (岩手小)

### 4. 年間計画

	月 日	会 場	司会・記録	内 容
1	5. 8	塩山南小		研究テーマ, 研究内容・方法の決定
2	5. 15	山梨小	加納岩・玉宮	年間警句・授業者の決定, 春季教研の報告
3	6. 5	山梨小	井尻・加納岩	発表: 玉宮小・山梨小
4	8. 5		岩手・勝沼	夏季学習会 授業案検討・臨地研修・学習会 発表: 東雲小
5	8. 30	牧一小	玉宮・岩手	<b>統一授業研 牧一小 那須先生</b>
6	10. 2	塩山南小	勝沼・山梨	<b>秋季教研</b> 発表: 三富小・井尻小
7	11. 27	山梨小	三富・井尻	発表: 加納岩小・勝沼小
8	1. 15	山梨小	岩手・勝沼	授業案検討
9	2. 5	岩手小	井尻・三富	<b>統一授業研 岩手小 加々美先生</b>
10	2. 12	塩山南小	玉宮・岩手	冬季教研, 25年度研究のまとめ

### 5. これまでの研究の歩み

#### 【第1回 5月8日】

- 本年度の研究計画（テーマ・研究内容・方法・授業実践計画）の決定
- ・本年度のテーマについては「開かれた学校づくりをめざして」とする。
  - ・夏季学習会では講師を招き、保護者・地域住民との連携について理論研究を行う。
  - ・具体的な取り組みについては、各自実践発表をする。
  - ・2回の統一授業研究を行う。
  - ・本部会は課題提示型の研究授業に近いので、授業案検討については、授業者のイメージを大切にしながら、学校と地域との関わり方を探っていくようにする。授業者は、学校や地域の特性に合わせた授業提供をし、研究を共有し合う。
  - ・常任講師の先生方には、学校と地域との関わり方・連携のあり方等について、指導・助言をいただく。

【第2回 5月15日】

○年間計画，授業者の決定

○春季教研の報告

【第3回 6月5日】

○実践発表（玉宮小・山梨小）

地域人材系統表 地域教材関連表の紹介

\*保護者・地域住民と提携した取り組み

・学習支援ボランティア

・図書ボランティア

・保育園との連携・ろう学校との連携

【第4回 8月 5日】

夏季学習会

○統一授業研究の授業案検討 「牧丘のむかし発見」（総合的な学習の時間）

○実践発表（東雲小）

\*保護者・地域住民と提携した取り組み

・農業体験

・和楽器体験

・まち探検

・清掃活動

○「家読」についての学習会（県社会教育課より講師を招いて）

○「地域おこし，町おこし」学習会（ワインアドバイザーより）

【第5回 8月30日】

○統一授業研 研究授業 牧一小 那須 美佳先生

4年 総合的な学習の時間「牧丘のむかし発見」

【第6回 10月2日】

秋季教研

○実践発表（三富小・井尻小）

\*保護者・地域住民と提携した取り組み

・スナッグゴルフの実践

・笛吹童太鼓

・児童会のお祭り 家読の取り組み

## II 実践報告

# 第4学年 総合的な学習の時間授業案

指導者 牧丘第一小学校  
那須 美佳

### 1. 単元名 「牧丘のむかし発見」

### 2. 単元について

本校は山梨市の北部に位置し、豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれた、果樹栽培を中心とする農業が盛んな地域の中にある。また、国重要文化財の中牧神社、武田氏ゆかりの中牧城跡、明治時代の藤村式建築の室伏学校など、歴史的な視点から見ても重要な文化財等が数多く残されている地域でもある。

第4学年児童（男子14名、女子9名 計23名 特別支援学級在籍の児童を含む）は大変活発で意欲的に学ぼうとする児童が多い。三世代同居や地域の中に祖父母がいる家庭に暮らしている児童がほとんどで、地域とのつながりの強さも感じられる。事前アンケートからも、どんど焼きなどの地域の行事にも積極的に参加している様子がうかがえる。一方、地域の文化財の存在は知っているものの、そのいわれや地域の発展の歴史などについて知っている児童は少ない。

本単元では地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域の特色に応じた学習活動を行う。地域の主要産業である農業の移り変わりと、中牧神社などの文化財を学習対象として取り上げる。ここでは、地域の歴史や文化・産業の変化について、地域の発展・文化の継承に取り組んできた人々の思いや願い、これからの自分と地域の関わり方が学習事項となる。

#### 〔農業の変遷について〕

牧丘地域では関東地域の多くがそうであったように稲作と養蚕中心の農業であったが、戦後社会の変化に合わせて農業のあり方も変わり、牧丘地域の土地と気候に合った巨峰栽培へと変化を遂げていった。地域には今も水田が残っていることや、3年生の時に蚕を飼育し学習した経験、家族などの話からも、牧丘の昔の土地や農業の姿について知識のある児童もいることが予想される。本単元では昭和期の農業の変遷についてリアルタイムで経験してきた地域の方から話を聞くことで、どのような思いで農業に取り組み地域の発展に尽くしてきたかを考えさせていきたい。

#### 〔中牧神社、室伏学校、中牧城跡について〕

牧丘には多くの文化財がある。本校学区では国指定の中牧神社、県指定の西川家住宅、加治免石幢、室伏五輪塔など、市指定の室伏学校、柚口・室伏の打ちはやし、そのほかにも隼の大わらじ、中牧城跡などがある。

指導にあたっては、まず古地図に残っている地名をはじめ、牧丘に昔から伝わるものに目を向けさせていく。その中で、人々が生活の基盤としてきた農業について全体で学習を進めていく。事前に課題について考えることで疑問点を明らかにし、その後に調べ学習をすることで進

んで調べようとする意欲を高めていきたい。また、本などの資料だけでなく地域の方や家の人に話を聞くことを通し、地域や保護者との関わりの中に学んでいく姿勢を育ていきたい。後半ではそれぞれの課題に対して、実際に地域を歩いてみたり施設等を見学したりする調査方法のほかに、家族やその文化財に詳しい人を紹介してもらって話を聞くなどして、調べ学習を進めていく。本単元の調べ学習やまとめの過程、他グループの発表を聞くことで、その文化財が地域の人々のどのような思いの中で今日に受け継がれているか考え、自分と地域との関わり方について考えをもてるようになることをめざしていきたい。

[ゲストティーチャー・授業協力者について]

- |         |   |
|---------|---|
| 藤原 達男さん | 山梨市文化財指導委員<br>・ 牧丘町中牧地区在住                                     |
| 小林 匠 さん | 中牧公民館 館長<br>・ 牧丘町中牧地区在住 元小学校教員<br>・ 小学校社会科副読本「私たちの橋上」の編集に携わる。 |
| 澤登 芳 さん | 有機果実生産者<br>・ 牧丘町中牧地区在住<br>・ 「牧丘・葡萄物語」筆者                       |

### 3. 単元の目標

- 地域の歴史や文化・産業に関心を持ち、調べたいことを見つけ自分で課題を設定し調べることができる。
- 地域の人々と関わりながら必要な情報を集め、地域の人々の思いや願いを考え、自分なりの方法で表現することができる。
- 自分が住んでいる地域のよさに気づき、地域に愛着を持ち、自分と地域の関わりについて考える。

### 4. 単元の評価規準

I	課題設定能力	地域に伝わる文化財や産業などに関心を持ち、それらに関わる情報をもとに、自分自身の興味関心に基づき課題を設定している。
II	問題解決能力	課題について、地域の方の話を聞いたり資料を活用したりする方法で調べ、地域の人々の思いや願いを考えている。
III	活動への意欲	地域の歴史や文化・産業について興味関心を持ち、進んで調べるとともに、それらのことをまとめ発表している。
IV	自己の生き方	地域の歴史や文化・産業を調べることで、自分たちの地域のよさに気づき地域に愛着を持つとともに、自分と地域の関わり方について考える。

5. 単元の指導計画（全14時間のうち課外2時間）

過程	主な学習活動	評価規準（評価方法）
課題の設定 1 2	<p>①写真や昔の地図などをもとに、今と同じところや違うところなどについて話し合い、昔の土地の様子や人々の暮らしに関心をもつ。</p> <p>②昔の土地の様子や文化財などについて、疑問点やもっと調べてみたいことを話し合いの中から考える。</p> <p>全体で学習～秩父往還，農業の変遷 グループ別～室伏学校，中牧神社，中牧城跡， など。</p>	<p>Ⅰ 疑問点や調べてみたいことを考えることができる。(プリント)</p>
情報の収集と整理・分析 3 4 5 6 1	<p>①農業の変遷について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業について学習したことや見聞したことをもとに、昔はどんな農作物を生産していたか推測する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方から農業の変遷について話を聞き、集めた情報を記録する。</li> <li>・ 地域の人々はどんな願いを持って農業に取り組んできたか考える。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地利用図や生産量などを表す統計資料などから、農業の変遷について調べる。</li> </ul>	<p>Ⅱ 農業について地域の方から話を聞いたり資料を調べたりして、農業の変遷について調べ人々の思いについて考えることができる。(観察・プリント)</p>
情報の収集と整理 7 8 9 10	<p>②グループごとに地域の文化財を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査計画を立てる。</li> </ul> <p>(見学，写真等への記録，地域の方や家の人からの聞き取り，本などの資料を読むなど)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに調べ学習をする。(課外)</li> </ul>	<p>Ⅰ 疑問点や調べてみたいことを考えることができる。(プリント)</p> <hr/> <p>Ⅲ 計画に基づいて家族や地域の人に聞いたり地域に出て実</p>

分析その	2	11	・グループごとに調査結果を持ち寄り，地域の人々の思いや願いについて考える。	際のものを調べたりし，文化財に込められた地域の人々の思いや願いについて考えることができる。（観察・プリント） Ⅲ文化財について調べることができる。（観察・プリント）
	ま	12	①グループごとに調べたことをまとめる。	Ⅲ文化財について調べたことを進んでまとめ発表することができる。（観察・制作物） Ⅳ発表を聞くことで，自分たちの地域のよさに気づき地域に愛着を持つとともに，自分と地域の関わり方について考えることができる。（観察・プリント）
と	13	・紙芝居やポスターなど発表方法を考え発表資料を作成する。	・発表を聞いて，文化財などに込められた人々の思いや願いについて考え，自分たちの関わり方についての考えを持つ。	
表	14	②発表会をする。		
現				

## 6. 本時の学習

- (1) 日時 平成25年8月30日（金） 午後2時～2時45分
- (2) 場所 山梨市立牧丘第一小学校 第4学年教室
- (3) 題材名 牧丘のむかし発見
- (4) 目標 地域の方から話を聞くを通して，牧丘地域の昔の農業の様子やその移り変わり，農業に取り組んできた人々の思いを理解する。
- (5) 展開

過程	学習活動	教師の支援・評価規準・評価方法
導入 5分	1. 前時までの学習内容を振り返り，本時の学習内容を確認する。  牧丘の農業の移り変わりについて調べよう。	・牧丘の昔について，まずは農業を中心に全員で調べていくことを確認させる。 ・学習方法の確認と，ゲストティーチャーの紹介をする
展開 5分	2. 前時に予想したこととその理由を発表する。 ・米～田んぼが残っている ・蚕～3年生の時に勉強した。	・今の地域の様子や今までの学習を想起し，予想とその理由を明確にしながら，数名の児童に発表させる。



	<p>・くだもの～畑がたくさんある など</p>	
15分	<p>3. 地域の方の話を聞く。(農業全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いて分かったことを記録する。</li> <li>・もっと知りたいことを質問する。</li> <li>・農業に取り組んできた方々の思いを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さんより昔の農業や生活の様子をお話しいただく。 (資料～年表, 写真)</li> <li>・生活を支え, より豊かにしていくために時代にあった農業に取り組んできた努力について考えさせる。</li> </ul>
15分	<p>4. 地域の方の話を聞く。(巨峰中心)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いて分かったことを記録する。</li> <li>・もっと知りたいことを質問する。</li> <li>・農業に取り組んできた方々の思いを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨峰作りが盛んになっていったわけを, 澤登さんへのインタビューと資料をもとに, 小林さんから話していただく。</li> <li>・巨峰作りに移行させ, 地域の特色ある作物として育てていった思いを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Ⅱ農業について地域の方から話を聞き, 農業の変遷について調べ人々の思いについて考えることができる。(観察・プリント)</p> </div>
まとめ 5分	<p>5. 学習のまとめをする。</p>	<p>学習の感想を記入し発表する。</p>

【授業に至るまでの経緯】

日付	内容	方法
6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○牧丘在住の本校教職員に, 牧丘地域に詳しく授業づくりに協力していただける方として, 小林さんを紹介してもらう。</li> <li>○小林さんに授業の構想について相談する。</li> </ul>	<p>文書 電話依頼</p>
7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○牧丘のむかしについて, 知っていることや疑問に思っていること調べたいことなどについて, 児童にアンケートをとる。</li> </ul>	<p>アンケート</p>
7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小林さんより農業について詳しい方として, 藤原さんを紹介していただく。</li> </ul>	<p>電話依頼</p>
8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小林さん, 藤原さんと授業や話の内容について打ち合わせをする。</li> </ul>	<p>訪問</p>
8月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小林さんより, 農業の中で特にブドウの分野に詳しい方として, 澤登さんを紹介していただく。</li> </ul>	<p>電話依頼</p>

8月下旬	○小林さんと、澤登さんよりブドウについての話を聞く。	訪問 来校
	○澤登さんより児童用の資料の提供を受ける。 「牧丘・葡萄物語」著者・澤登 芳	
授業前日 まで	○藤原さんより昔の道具の貸し出し、教材用資料として使う年表の原稿、写真の情報提供を受ける。	来校 電話 電話
	○藤原さん、小林さんと当日のスケジュールの最終確認。	

## 授業の様子，児童の感想，学習資料



(児童の感想，学習資料 略)

## 研究討議から

### 1 授業者より

・ゲストティーチャー同士が連絡を取り合い、授業づくりに協力してくださった。小林さんがゲストティーチャーのコーディネート役として、藤原さん、澤登さんへあらかじめ協力を依頼する電話をしてくださったことで、話をスムーズに進めることができた。また、「子どもが資料を家に持ち帰って、牧丘のむかしについて家族との話題にしてほしい。そうすることで学習が深まる。」との藤原さんの配慮から当日話す内容を文章にしてくださり、それを、小林さんが活字にしてくださった。

・ゲストティーチャーから授業のアドバイスをいただいた。水車小屋についての情報提供や農機具や昔の道具の貸し出しなど、子どもが話からだけでなく実物に触れたり写真を見たりしながら学べるようサポートしてくださった。

・話を上手に聞くために、話を聞く視点を与えておくなどの工夫をすればよかった。

### 2 質疑

・小林さんは以前からの人材なのか。

→今回初めてお願いした。

地域と学校のことをよく理解してくださって協力をしていただける素晴らしい人材である。

- ・藤原さんは今後の学習でも講師となるのか。  
→今後、児童が調べ学習にどんな課題を持つかによって、別の方をお願いする可能性がある。  
子どもたちに伝えたい思いがあることが感じられる、素晴らしい講師の方だと感じる。

### 3 討議

・「昔」についての概念が難しいだろうと思っていたが、年表が提示され、「～はこの頃」とみんなで確認され、共通理解が図られた。後ろの児童も見やすいように年表の文字はもう少し大きくするとよかった。

- ・講師と授業者で打ち合わせができていたため、講師が話す内容が授業のねらいに合っていた。
- ・講師の話を書かせる際の工夫について

話を聞く活動は、子どもが受け身になってしまうことが多いので、今回であれば、写真や道具を使いクイズ形式で進めるなどの工夫が考えられる。

授業で使うプリント（聞き取りメモ）は、ポイントをしばったものであるとよい。

キーワードを書いたカードや付箋紙を用意しておき、年表の下段に聞き取ったことをはり付けていくようにすると、文字を書く手間を省略し話を聞くことに集中できる。児童によってはさらにメモを書きたしていくこともできる。

- ・授業者の思いがゲストティーチャーに伝わり、ゲストティーチャーの思いが子どもたちに伝わるという、つながりのある授業だった。

### 4 指導助言

・子どもたちの感想に「新たな疑問が生まれた」とあったが、次の学習につながる授業であった。子どもたちのつぶやきを活かしていくことで次の授業が広がり深まっていく。

・2人のゲストティーチャーに対し、授業の時間が少なかった。子どもたちがもっと質問をしたり道具の使い方を教えてもらったり写真を見ながら話し合ったりと、交流する時間がもっと取れるとよかった。

- ・次時以降で農業と生活、経済的な関わりをまとめておくとよい。
- ・授業者が地域に出て自分で調べ、地域の方と関わりを持ったことがよかった。

## Ⅲ 成果と課題

○本実践では、学習課題について地域の方から直接話を聞き課題を解決していくことができた。子どもたちにとっては地域の方々の思いを知るよい機会となった。また、地域の方から教わったことをそれぞれが家庭に帰って話題にすることでさらに学習が深まり、新たな連携を生むことにつながった。

○地域の方と子どものつながりを作ることは大切である。そのためにも学校側から進んで地域に出て行き地域とのつながりを持つこと、そのつながりを今度は子どもたちに作っていくことが必要である。地域と子どもの橋渡しになるような活動が大切である。

○地域の人材についての情報は、学校内での共通理解を図ることで、次年度以降もスムーズな授業づくりが可能になると思う。授業により生まれたつながりを、今後も継続させていくこと

が大切である。授業以外でも行事などでも交流を深めていくことは可能であろう。

○毎回の研究会では、各学校の具体的な取り組みについての実践発表を聞くことによって、互いに参考になる面がたくさんあり、それぞれの学校でいかすことができる情報を共有することができた。また、講師の方々からのお話からは、保護者や地域住民との連携の方法について学ぶこともできた。

○保護者や地域住民を学校に招き講師として教えていただいたり交流をもったりすることで、その方の考え方、生き方に直に接することができ、キャリア教育の一環としてとらえることもできる。

○児童が保護者や地域住民と接している時、児童は教職員の手から離れ外部講師との直接的な関係が生まれる。そのようなときこそ児童の聞く態度や言葉づかい、あいさつなどの力が試されることになる。外部人材との交流は、児童に対する教職員の指導の評価、改善、より良い実践につながると考えられる。

○保護者や地域住民との交流は、児童にとってだけでなく教職員にとっても多くのことを学ぶ機会になる。また、保護者や地域住民からは「子どもたちが一生懸命に話を聞いてくれてうれしかった。」「元気をもらった」「子どもたちのがんばっている様子が伝わった。」などの感想をいただく。保護者や地域住民との提携は、それぞれにとってよさがあることが分かった。